

公式noteよりご紹介

リハビリじゃない。でも、リハビリになる。片麻痺の方たちが教えてくれた、ものづくりの力

社会福祉法人あだちの里 谷在家デイサービスセンター

こんにちは。さくらほりきりCS推進チームの太田です。 私たちはどうすればもっとお客様に喜んでいただけるのかを、日々考えています。でも、そうした気づきは、得てして実際の「現場」でこそ生まれるもの。だからこそ、私たちは 直接お客様とお話しし、現場の声を大切にしたいと考えています。

今回は、そんな「現場の声」をお届けするために、足立区の谷在家デイサービスセンター様を訪問させていただいた際のお話をご紹介します。

### 30年以上のご利用と、身体機能改善の声

谷在家デイサービスセンター様は、障害者支援型のデイサービスで30年以上にわたり、さくらほりきりのキットをご利用いただいています。担当の星野様とお電話でお話した際、「さくらほりきりのキットで機能改善が見られた方がいる」ということを伺い、ぜひ直接お話を聞きたい!と思い、今回訪問させていただくことになりました。

### 「ものづくり」を通じて大事にしている価値観

私たちさくらほりきりのキットは、「誰でも簡単に、完成度の高い作品が作れる」ことをコンセプトにしています。また、ものづくりを通じて、次のような価値をお届けしたいと考えています。

作れた喜び 安心感 夢中になれる

この日、デイサービスでお会いしたお二人のご利用者様も、まさにその価値を体現されていました。

施設に到着し、玄関ロビーに飾られた利用者様の作品ギャラリーを抜けて創作ルームへ向かうと、お二人の方が人気シリーズの「きめこみパッチワーク」に取り組まれていました。

### 続けるうちに物をつかめるようになった（片麻痺のH・Nさん）

H・Nさんは、交通事故による高次脳機能障害の影響で、当初は手のひらを開くことができませんでした。しかし、ものづくりを続けるうちに少しずつ機能が回復し、今では物を掴めるようになったとのこと。「きめこみパッチワーク」は、布を切る下準備が必要ですが、H・Nさんは両手を使いながら器用に作られていました。



帰り際、H・Nさんがスマホを取り出し「見てください!」と嬉しそうに見せてくれたのは、ご自宅の壁一面に飾られた完成作品の数々。「すごい!素敵ですね!」とお伝えするとH・Nさんは満面の笑顔でうなずかれました。でも、きっと私たちの方がもっと嬉しい顔になっていたと思います（笑）。



SKR NEWS

7月に放送されたテレビ朝日「じゅん散歩」に、浅草橋にあるさくらほりきりのお店が出演しました。高田純次さんが、きめこみパッチワークや天然木のさくらあーなどをご覧になりながら、スタッフやお客さまと楽しいお話をしていただいた様子が放送されました。

店舗の外観からばっちり放送されました！



▼

店長がお出迎え。



▼

スタッフが作っている様子をご覧になり：



和紙もいろいろ見られました。



▼

海外からのお客さまとも記念撮影。



放送後、多くのお客さまがご来店になり大きな反響をいただいております。新たな手作りの魅力と出会える店舗にぜひ一度、ご来店ください！

店舗情報  
東京都台東区柳橋1丁目25-3  
営業時間／10:00～17:00(水・日・祝日お休み)



さくらのつぼみへの投稿を募集しています

さくらほりきりのキットを作った感想や、日常のお話、イラストや絵手紙、飾っているお写真などをお待ちしています。皆さまの楽しい様子をぜひ、さくらのつぼみでご紹介させてください！

ぜひ取材に来て！という方も費用の許す限り(笑)さくらが行くから教えてね！

おたより待ってるよ！

スマホやパソコンからの投稿はこちら



スマートフォンや携帯電話で読み取ってください。

※こちらのお便りやメールに、商品のご注文やお問い合わせをいただいても対応できません。ご注文・問合せ・カタログ請求の記入はしないようお願い致します。

郵送での投稿はこちら

〒290-0034  
千葉県市原市島野 1567-2  
さくらほりきり通販センター  
さくらのつぼみ 係

必ず①～⑥を明記してお送りください

①お名前  
②ペンネーム(任意)  
③郵便番号と住所

④電話番号  
⑤年齢(任意)  
⑥エピソード、ご感想

投稿に際してのお願い

お便りをさくらのつぼみに採用させていただく際、お電話等での確認は省かせていただきます。名前は出さないでほしいという方はペンネームの明記をお願いします。



さくらほりきり

〒290-0034 千葉県市原市島野1567-2  
TEL.0436-25-2222

2025.09



## 孔雀牡丹図で広がる日本の美と押絵作りの魅力



7月に発売した「布押絵・孔雀牡丹図」は、お客様から大きな反響をいただいています。特に、華やかなデザインと、F6号という堂々としたサイズが、皆様の創作意欲を刺激したようです。長年押絵をお楽しみいただいているベテランの方から、初めて押絵に挑戦される方まで、幅広いお客様から「作ってみたい！」という嬉しいお声が届きました。「もうやめようかと思っていたのに、チラシを見て作りたくなった」という嬉しいお声も。今回は、皆様から寄せられた声や、ご質問にお答えしながら、この商品の魅力、押絵の魅力をお届けします。

### 日本画の巨匠も魅了した「孔雀牡丹図」の構図

「布押絵・孔雀牡丹図」は、その華麗なデザインで多くのお客様を惹きつけていますが、この孔雀と牡丹の組み合わせは、実は古くから日本画の世界で愛されてきた伝統的な画題です。特に江戸時代の絵師、伊藤若冲や円山応挙といった巨匠たちも、孔雀と牡丹の構図を数多く描いています。

### 「きめこみパッチワーク」と「押絵」の魅力の競演

「きめこみパッチワーク」をしているけれど、『孔雀牡丹図』はきめこみになることはありませんか？」というご質問も寄せられました。大変嬉しいことに、普段きめこみパッチワークを作っている方からも、この絵を気に入ってくださったというお声も多いのです。

「孔雀牡丹図」は、その繊細な孔雀の羽や力強い木の幹、そして華やかな牡丹の表現において、押絵ならではの豊かな立体感と、下絵に印刷された繊細な描写の対比が魅力のひとつ。布で表現するふっくらとした質感と、繊細な印刷が融合することで、細やかな描写ができるのは押絵ならではの醍醐味です。

一方、全面を布で埋めていくきめこみパッチワークは、押絵とは異なり、デフォルメ（簡略化）した柔らかな線で表現するもの。この絵柄をそのままきめこみパッチワークにするのは、難しいかもしれません。この絵柄を気に入られた方は、ぜひ押絵に挑戦していただければと思います。その一方で、多くのお客様さまのお声を反映できるよう、繊細なこの絵柄をきめこみパッチワークにする方法はないか、企画担当者が検討を重ねております。今後の展開にどうぞご期待ください。

### 細部に宿る、美しさと作りやすさへのこだわり

「孔雀が乗っている木の部分も手作りでしょうか？台紙に絵が描かれているのですか？」「孔雀と牡丹だけを作るのですか？」「孔雀の羽はくるむのでしょうか？」「足も細いのでこれも手作りでしょうか？」といった、作品の細部に関するご質問も頂戴しました。

特にご質問が多かった孔雀の羽根の細い部分や、孔雀がとまっている木の幹や枝、背景の草花などは、下絵

と幸福感をもたらします。この「布押絵・孔雀牡丹図」は、まさにそうした伝統的な日本画の美意識を受け継ぎながら、布押絵ならではのふっくらとした温かい立体感で表現しています。下絵の印刷による繊細な描写と、布でくるんだパーツの大胆な構図の対比は、若冲が描いたような生命力溢れる世界観を、手作りの温もりと共に現代に蘇らせます。ご自宅に飾ることで、お部屋に格式と彩りを添えるだけでなく、古くから伝わる縁起の良い意味合いも感じられることでしょう。

### 「押絵ってどうやって作るの？」手作りの第一歩へ

「押絵を初めて作ってみたいけれど、どうやって作るの？」そんなご質問を多くいただいております。日本の伝統工芸である押絵は、厚紙を絵にあわせて切り、そこに綿をのせ、上から布でくるんでパーツを作り、それらを貼り重ねて絵を表現する技法です。

さくらほりきりの押絵は、この中の難しい工程や、面倒な部分を省き、特別な技術がなくてもお楽しみいただけるように工夫を凝らしています。

さくらほりきりの押絵は…



綿の代わりのウレタンが予めボール紙に接着されている



必要な形に型抜き済みで、下絵を書いたり切り抜く必要はない

特に「布押絵・孔雀牡丹図」は、ウレタン付きボール紙に必要な記号が印刷されていたり、下絵ボードに貼る位置が記されていたりと、大きなサイズでも安心して取り組めるよう特別な配慮をしています。

大きな作品をいきなり作るのは不安という方は、「くるむ」ことに慣れるために、小さめの手軽な押絵から挑戦されています。ボードに美しく印刷されています。それは、細かすぎてくるむのが難しいということのないよう考慮した工夫です。また、立体的な押絵のモチーフと平面的な下絵の組み合わせが、絵全体に奥行きと迫力を生む効果をもたらしています。



木や足の部分



繊細な羽根の表現



牡丹にも立体感と奥行



迫力のある押絵の立体感

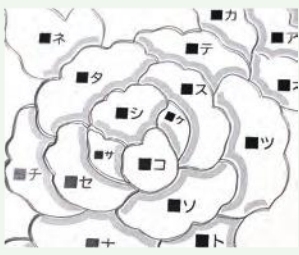
### 年齢を重ねても楽しめる、押絵の新たな挑戦

長年押絵をお楽しみいただいているお客様からは、「以前のような仕上がりにできなくなった」「F6号は久しぶりなので、できるか心配」といったお声をいただきました。不安がありながらも、「作ってみたい」という気持ちもたくさん伝わってきました。

まずご安心いただきたいのは、「孔雀牡丹図」は、多くのパーツが丸みを帯び、角が少なく、細かすぎる部分が少ないため、比較的布でくるみやすいデザインとなっていることです。この点は、過去にF6号の作品に

戦いたくのがおすすめです。例えば、「三連タペストリー（シマエナガ）」や、「押絵ごよみ：十月（夫婦ふくろ）」などから始めてみてはいかがでしょうか。

布押絵・孔雀牡丹図は…



必要な記号が印刷されている



貼る位置が分かるように印刷された下絵

※基本的なモチーフの作り方です。土台の作り方はそれぞれ異なります。



パーツの裏紙をはがします。ウレタンの表面は、粘着になっています。



実物大図の上にパーツを置き、斜線部分の布の表にボンドタッチをつけ、パーツを貼り重ねます。

### さくらほりきりの押絵の基本的な作り方

必要な道具：クラフトチョキ（よく切れるはさみ）、ボンドタッチなど



ウレタン付きボール紙のパーツに、記号と斜線を書き入れます。



布の裏にパーツを貼り、まわりを約6mm大きく切り取ります。



パーツごとにはずします。手で押すと簡単に取りはずせます。



布にボンドタッチを薄くつけ、ボール紙に貼ってパーツをくるみます。斜線部分は残します。

挑戦された方々からも「これなら大丈夫」とご好評いただいている点です。

もちろん、押絵の中では時間のかかる大作であるということは間違いありません。しかし、この「孔雀牡丹図」をきっかけに、「また作りたい」という気持ちになったというお話を伺えたことが、なにより嬉しいことでした。

この作品への挑戦は、ものづくりに没頭するよろこびを、多くの方に届けてくれるはず。時間はかかりますが、じつくりと作品作りに集中することで、ほかにはない達成感と満足感を得られ、美しい作品を完成させた時の誇らしさはひとしおです。完成した作品を地域の作品展などに出品し、多くの方にお披露目することも新たなよろこびへと繋がっていきます。

興味のある方は、ぜひ挑戦してみてください。皆さまが押絵の楽しさを知り、作るよろこびを感じられるよう私たちも全力でサポートします。

